

(2) 施策の方針

第2章 歴史を継承し、文化を創造するまち

分野(1) 歴史環境

施策の方針② 史跡の指定、保存・管理、整備及び活用

<目標とすべきまちの姿>

歴史的・学術的に重要な遺産については、順次、史跡指定などの手続きが進められ、保存管理計画のもと、適正な管理により保護されています。
また、整備された史跡については、公開・活用が図られています。

1 事業評価結果一覧表

文化財部

評価対象事業名		決算値 (千円)	総事業費 (千円)	26年度 職員数 (人)	今後の方向性	
整理番号	事業名				事業内容	予算規模
文財-02	史跡調査・整備事業	312	4,139	0.5	b	A
文財-03	史跡環境整備事業	174,607	197,570	3.0	b	B

2 平成26年度末の目標

文化財部

史跡永福寺跡苑池復元整備工事や北条氏常盤亭跡防災工事を円滑に進め、遺跡調査の成果を報告にまとめる。

3 平成26年度の取組の評価

文化財部

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善

発掘調査報告書は刊行できたが、史跡永福寺跡苑池復元整備工事は、その特殊性から、工事未了(平成27年度へ繰越)が生じてしまった。今後は着実な進行管理を行う。

4 今後の方向性

文化財部

公有地化した史跡は積極的な公開、活用が必要であるが、整備及び維持管理には継続的な経費が必要となるため、有効な維持管理方法を検討し実施すること及び市単独予算の頼らない予算の確保が重要となってくる。

5 平成27年度末の目標

文化財部

史跡永福寺跡は、平成27年度末に仮オープンを予定しており、そのための整備を円滑に進めていく。また、北条氏常盤亭跡の南側斜面の防災工事を平成28年度に実施するために、実施設計委託を行う。
西瓜ヶ谷やぐら群については、国の史跡指定を視野に今後の取り組みについて、関係各機関と調整していく。

鎌倉市民評価委員会の評価

1 評価できるところ

- ・新たな史跡に対しての発掘調査を進めているところや、史跡の整備及び保存・活用を推進しようとしているところなど、これらの姿勢は「古都鎌倉」として、さらなる発展を期待させるものであり、今後も進めてほしい。
- ・西瓜ヶ谷地域のやぐら群の遺跡確認調査報告書を作成した。
- ・史跡永福寺跡の苑池復元整備工事、史跡北条氏常盤亭跡の防災工事等を行った。
- ・歴史的・学術的遺産についての史跡指定等保存管理に向けた事業が進められた。

2 課題・提言

- ・史跡指定後、管理経費、整備の方向性の検討も必要である。
- ・史跡の指定数が多く、対象となる範囲も広範なため、全ての史跡で十分な管理ができていない等の課題がある。
- ・鎌倉の歴史環境を保護する事＝鎌倉らしさを大切にする、ということだと思うので、これらは鎌倉にとってとても重要な施策であると思う。一方で、その性質上それなりに予算規模が膨らむ施策であると思う。それらについて市民に了解を得る、という意味でも調査報告や、管理・整備した史跡がどのように貴重な財産であるのかを、市民に公開してほしい。